

県立高校の在り方に係る地域協議会（賀茂地区）

令和4年7月6日（水）15時15分～17時
下田総合庁舎別館2階賀茂キャンパス

次 第

1 情報共有事項

(1)「県立高校の在り方に係る地域協議会の設置」

資料1

《参考》

- ・県立高校の在り方に係る地域協議会（賀茂地区）について
- ・県立高等学校第三次長期計画の概要

《参考資料1》

《参考資料2》

(2)「賀茂地域の現状」

資料2

《参考》

- ・賀茂地域の出生数の現状
- ・賀茂地域の高等学校の現状
- ・賀茂地域の学校統合状況
- ・高等学校の配置について
- ・賀茂地域の高等学校の校舎について
- ・賀茂地域の高等学校について
- ・熱海・伊東地域の現状
- ・伊豆総合高等学校土肥分校県外募集の開始について

《参考資料3》

《参考資料4》

《参考資料5》

《参考資料6》

《参考資料7》

《参考資料8》

《参考資料9》

《参考資料10》

2 協議事項

「賀茂地域における今後の県立高校の在り方について」

資料3

《参考》

- ・地域ニーズに対応する高校の検討（例）
- ・「賀茂の子」が育つ地域作りに向けて
- ・スクールミッションについて

《参考資料11》

《参考資料12》

《参考資料13》

県立高校の在り方に係る地域協議会（賀茂地区）名簿

（敬称略）

○委員

	役職	氏名
静岡県	教育長	池上 重弘
	教育部長	水口 秀樹
	教育監	塩崎 克幸
首長	下田市長	松木 正一郎
	東伊豆町長	岩井 茂樹
	河津町長	岸 重宏
	南伊豆町長	岡部 克仁
	松崎町長	深澤 準弥
	西伊豆町長	星野 淨晋
教育長	下田市教育長	佐々木 文夫
	東伊豆町教育長	横山 尋司
	河津町教育長	鈴木 基
	南伊豆町教育長	佐野 薫
	松崎町教育長	佐藤 みつほ
	西伊豆町教育長	鈴木 秀輝
PTA	下田市立下田中学校PTA会長	野田 政哉
	松崎高校PTA会長	笹本 美津代
産業界 その他	下田商工会議所会頭	田中 豊
	下田豆陽会会長	長田 育郎
	松崎高校同窓会長	藤井 要
	稲取高校同窓会長	佐々木 禎
	南伊豆分校同窓会長	渡邊 力

○オブザーバー

	役職	氏名
高校	静岡県立下田高等学校長	石田 金也
	静岡県立松崎高等学校長	新家 輝男
	静岡県立稲取高等学校長	三枝 美保子
中学	下田市立下田中学校長	山梨 弘樹
	東伊豆町立稲取中学校長	鈴木 元一
	河津町立河津中学校長	和泉 正樹
	南伊豆町立南伊豆中学校長	猪ノ原 克巳
	松崎町立松崎中学校長	森本 秀樹
	西伊豆町立西伊豆中学校長	松本 文貴

○賀茂地域広域連携会議出席者

	役職	氏名
	県議会議員	森 竹治郎
	経営管理部長	土村 暁文

○事務局

	役職	氏名
静岡県 教育委員会	教育部参事(学校教育担当)	本多 伸治
	高校教育課長	中山 雄二
	高校教育課学校づくり推進室長	桑原 克之
	高校教育課学校づくり推進班長	金子 雅也
	高校教育課学校づくり推進班教育主幹	河内 慶太
	高校教育課学校づくり推進班主査	新田 展也

第1回県立高等学校の在り方にかかる地域協議会（賀茂地区） 座席表

日時 令和4年7月6日（水）15時15分～17時

場所 下田総合庁舎別館2階賀茂キャンパス

三枝 新家 石田 中山 本多 山梨 鈴木 和泉 井ノ原 森本 松本
 校長 校長 校長 課長 参事 校長 校長 校長 校長 校長 校長

高等学校長	県教委	中学校長	中学校長
-------	-----	------	------

教育監 教育長 教育部長 経営管理部長 森県議

渡邊南伊豆分校同窓会長				下田市	松木市長	
佐々木稲取高校同窓会長					佐々木教育長	
藤井松崎高校同窓会長						
長田下田豆陽会会長				東伊豆町	岩井町長	
田中下田商工会議所会頭				横山教育長		
野田下田中学PTA会長				河津町	岸町長	
笹本松崎高校PTA会長				鈴木教育長		
	西伊豆町	松崎町	南伊豆町			
	鈴木教育長	星野町長	佐藤教育長	深澤町長	佐野教育長	岡部町長

県立高等学校の在り方にかかる地域協議会の設立について

(教育委員会高校教育課)

1 概要

「ふじのくに魅力ある学校づくり推進計画（静岡県立高等学校第三次長期計画）」（H30.3月策定。以下「長期計画」）に基づき学校づくりを推進してきた。

本県教育を取り巻く状況変化や課題等を踏まえ、長期計画で示されている県立高校の在り方について改めて検討する。

2 課題等

項目	内容
新時代に対応した学びの推進	○変化が激しい時代にあり、必要とされる資質能力や学びの手法等が変化（「生きる力」、「学びに向かう力・人間性等」、「個別最適・協働的な学び」、「探究的な学び」など）
人口減少の進行 地域の持続可能性	○長期計画策定後の生徒数の減少がさらに進行 策定当時(R10.3 中学校卒業見込者数)＝約 31,000 人 現在(R17.3 中学校卒業見込者数)＝約 24,000 人 さらに私立高校授業料一部無償化でこれまでの公私の役割が変化 ○地域の核として公立高校の役割への期待が拡大 ○志願者確保、教育の質の向上、教育環境の整備等に地域の理解と支援が不可欠（地域と連携した予算等の制約の克服）
コロナ禍による教育環境の激変	○学びの保障やデジタル化の遅れ、コロナ対応も含めた教員多忙化などの様々な課題が顕在化 ○ICT活用の急速な進展、学校のセーフティネット機能の必要性拡大など、教育の在り方の大きな転換期が到来

3 高等学校の在り方の方向性

変化の激しい時代を生きる生徒の資質能力を育むには、画一でない、多様で自由な教育環境が求められ、高校の在り方として、一層の多様性が求められる

項目	在り方の方向性	検討の視点
新時代に対応した学びの推進	○急激な社会変化に適応できる資質能力や学びの手法など、高校の新たな学習スタイルや将来像を提示	<ul style="list-style-type: none"> ・探究・地域連携など協働的な学び、実社会との関わりの深化 ・先端技術（AI・ICT）による個別最適な学び ・社会の急激な変化に適応できる多様な高校（体制・施設・カリキュラム等）
人口減少の進行 地域の持続可能性	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少に適応した学校の在り方 ○地域活性化の核としての高校魅力化・特色化 ○持続するための地域の理解・支援、施設等の持続可能性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な選択が可能な学校配置 ・再編ありきでない様々な選択肢（学校間連携、公私分担等） ・小規模校の教育内容の充実（特色ある学科への改編等） ・地域意見反映の仕組み、地域との連携・役割分担 ・施設整備（施設複合化等）など
コロナ禍による教育環境の激変	○学びの機会や質を保障するICT等の効果的活用	<ul style="list-style-type: none"> ・先端技術（AI・ICT）による個別最適な学び（再掲） ・教員の指導スキル向上

4 検討の進め方

(令和4年度)

- ①在り方に関する基本的方向性（基本方針）を策定
→学識経験者、教育・産業分野及び保護者の代表者からなる「静岡県立高等学校の在り方検討委員会」を設置
- ②並行して、首長も含め地域の意見を伺う場として「地域協議会」を設置
→小笠、沼駿、賀茂地域を先行設置。議論の内容を基本方針に反映
- *議論の過程は、随時、総合教育会議及び実践委員会に報告
- *「才徳兼備の人づくり小委員会」での議論の経過を随時反映

(令和5年度～)

- 基本方針を踏まえ、基本計画を策定
- 引き続き「地域協議会」を開催し、地域計画を策定

年度	地域協議会	【参考】在り方検討委員会
R 4	6月21日(火) 第1回専門部会 7月6日(水) 第1回地域協議会 ・地域ニーズに対応した学校の姿 (地域の現状の再確認 子どもたちにとって望ましい教育環境 県立高校の将来像 等)	第1回在り方検討委員会 ・目指す生徒の姿
	第2回専門部会、地域協議会 ・求められる高校教育に向けた手法 (教員の資質向上 小規模校の教育の質の維持 等)	第2回在り方検討委員会 ・多様な個性を伸ばす教育環境
	第3回専門部会、地域協議会 ・地域の支援と関わり (生徒、保護者の理解 財政支援 等)	第3回在り方検討委員会 ・支援体制の整備・構築 ※年度内に基本方針策定予定
R 5	第4回 ～ ・地区別実施計画の検討	第4回 ～ ・基本計画の検討

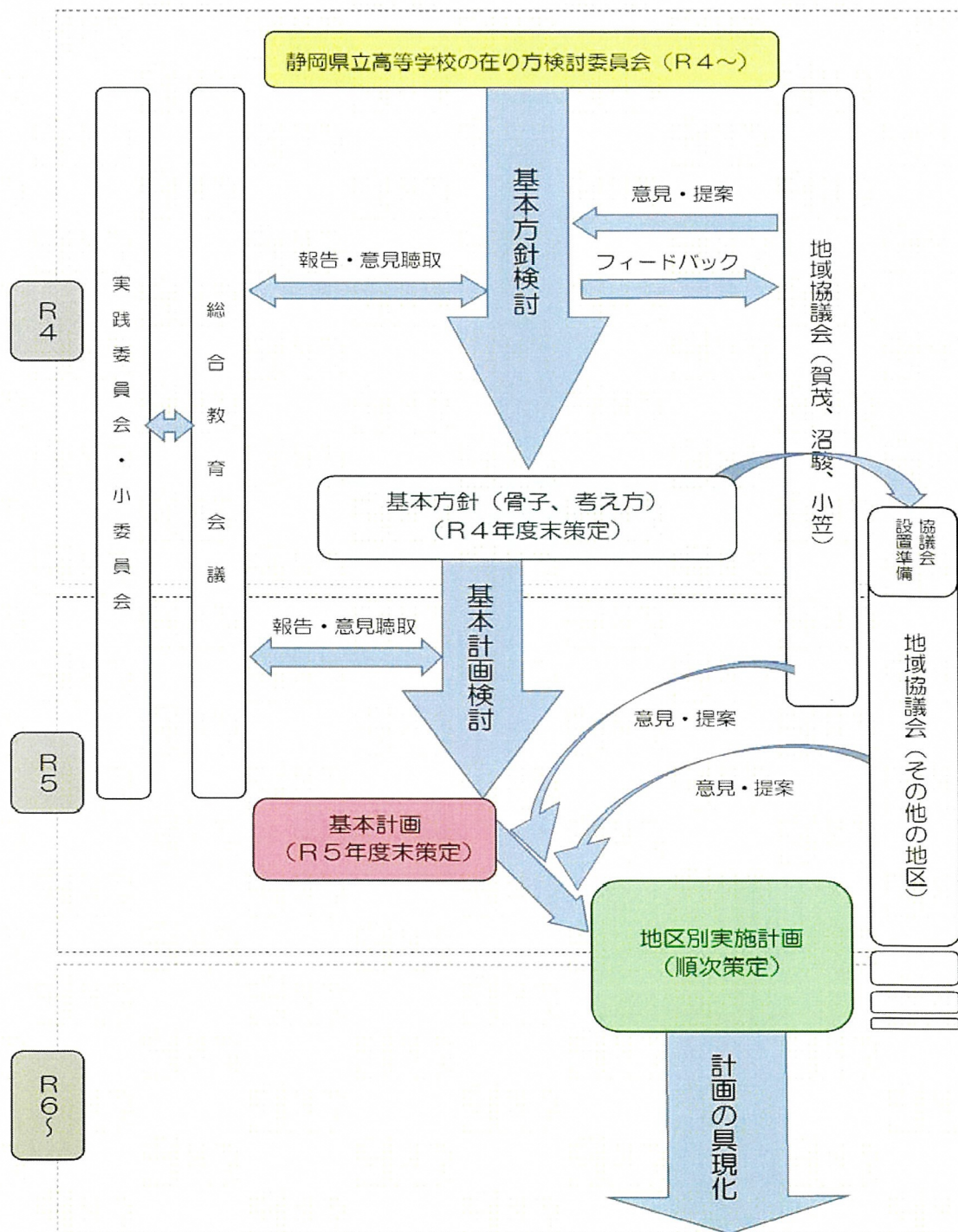
4 検討の進め方

(令和4年度)

- ①在り方に関する基本的方向性（基本方針）を策定
→学識経験者、教育・産業分野及び保護者の代表者からなる「静岡県立高等学校の在り方検討委員会」を設置
 - ②並行して、首長も含め地域の意見を伺う場として「地域協議会」を設置
→小笠、沼駿、賀茂地域を先行設置。議論の内容を基本方針に反映
- *議論の過程は、随時、総合教育会議及び実践委員会に報告
*「才徳兼備の人づくり小委員会」での議論の経過を随時反映

(令和5年度～)

- 基本方針を踏まえ、基本計画を策定
- 引き続き「地域協議会」を開催し、地域計画を策定



賀茂地域の現状

(県教育委員会 高校教育課)

- ・賀茂地域では、人口減少が顕著であり、児童、生徒数の減少が今後さらに進むことが見込まれている【参考資料 3】。
- ・賀茂地域以外の高校に進学するケースが例年 2～3 割程度見られる【参考資料 4】。
- ・このような状況を踏まえ、各市町では小中学校の統合が進んでいる【参考資料 5】。
- ・高校は平成 20 年に下田高校が誕生して以降、4 校体制を維持している【参考資料 6】。
(令和 4 年度募集学級数＝下田 5 学級、南伊豆分校 1 学級、稲取 2 学級、松崎 2 学級)
- ・各高校の校舎の老朽化も進んでいる【参考資料 7】。
- ・現状では各高校とも賀茂地区からの進学者が大多数を占めている【参考資料 8】。
- ・伊豆急行及び J R 伊東線でアクセスが容易な熱海、伊東地区からの生徒を呼び込むには至っていない【参考資料 9】。
- ・人口減少の中、地域の柱としての高校の役割が期待されており、学校と地域が連携した様々な取組が行なわれている。
- ・県内では、川根高校が全国募集を行っており、令和 5 年度からは伊豆総合高校土肥分校が全国募集を行なう【参考資料 10】。

(件 名)

令和4年7月6日

賀茂地域における今後の県立高校のあり方について

(高校教育課)

令和2年度に改訂された「賀茂地域教育振興方針」に基づき、教育現場では一体となって「賀茂の子※」の育成に取り組んでいる。

近年、賀茂地域の人口が大きく減少し、県立高校のクラス規模は、現行の10クラス規模から13年後には5クラス規模程度に減少することが見込まれる(賀茂学区中学卒業生推計ベース:406人→227人)。

地域の核としての公立高校の役割への期待が高まる中で、将来を見据えて、賀茂地域全体としてどのような教育環境を整備すべきか、県立高校の在り方を検討する必要がある。

※「賀茂の子」

“賀茂はひとつ”の想いのもと、ふるさとに誇りを持ち、地域の発展に貢献できる人

議論の方向性

- ・人口が大きく減少する賀茂地域の現状を踏まえ、子供たちにとって望ましい教育環境を確保するために、県立高校にはどのような将来像が求められるか。

(検討の視点)

- 求められる教育内容
- 学びの質を確保するための学校の体制

賀茂地域広域連携会議での検討の経緯

(県教育委員会 高校教育課)

平成 27 年度

- ・教育委員会の共同設置専門部会の設立

平成 29 年度

- ・賀茂 1 市 5 町にある高等学校（下田、稲取、松崎、南伊豆分校）の魅力化について検討開始

平成 30 年度

- ・検討の役割分担決定
(①全体の高校のあり方（下田高校の魅力化含む）を全体協議会で検討、②稲取、松崎、南伊豆分校はそれぞれの地域で魅力化について賀茂地域魅力化協議会を設立)

令和元年度

- ・「賀茂地域教育振興方針（令和 2～5 年度）の検討
(重点取組：高校の魅力化①賀茂地域における魅力ある高校づくり推進、②教職員の資質向上、③ICT教育環境の整備)

令和 2～3 年度

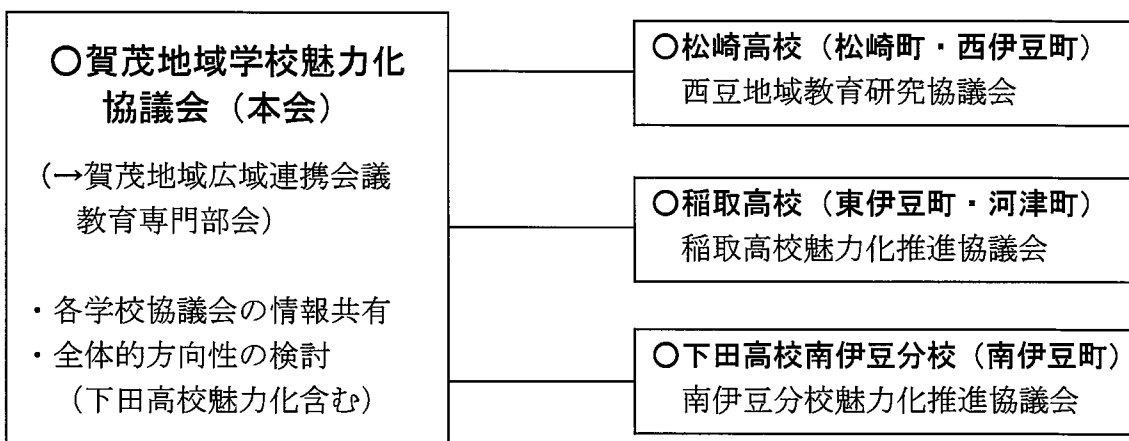
- ・高校の魅力化について検討
(伊豆総合高校土肥分校、浜松湖北高校佐久間分校の事例紹介、校舎制の紹介等)

賀茂地域学校魅力化協議会

(賀茂地域広域連携会議 教育委員会の共同設置専門部会
(賀茂1市5町及び県教育委員会))

1 概要

- ・賀茂地域の高等学校の魅力化を図るため、平成31年2月に立ち上げ
- ・本会を賀茂地域広域連携会議教育専門部会が兼ね、各地域でそれぞれの協議会を設置(既存の組織含む)
- ・各地域の協議会には、学校、行政、教育委員会、地域住民、商工会等が参加



2 取組

新型コロナウイルス感染症拡大により、各地域の協議会が開催困難な状況となっているが、地域と高校、学校間の連携は様々な形で行われている。

○西豆地域教育研究協議会

【構成員】行政、議会、教育委員会、小中高校

【取組】(R3.5.19 協議会で報告)

- ・松崎高校教員が松崎中学、西伊豆中学で授業実施
- ・松崎中学教員が松崎高校で授業実施
- ・中学・高校の公開授業
- ・高校教員の中学校一日体験研修
- ・部活動交流(ソフトテニス研修大会、スポーツ教室等)
- ・交流事業
合同挨拶運動、合同美術教室、合同美術鑑賞教室
キッズイングリッシュ、ジオパーク学習会、「西豆学」合同発表会
合同進路ガイダンス、合同美術・書道展
- ・新任教員研修(町内めぐり)、松崎高校一日体験入学
- ・幼保小中高PTA指導者研修会

○稲取高校魅力化推進協議会

【構成員】行政、教育委員会、小中高校、区長会、商工会、観光協会等

【取組】

<R2協議会（11/5開催）での報告事項>

- ・東伊豆町・河津町へ町所有のバス利用が実現し、部活動遠征に利用
- ・東伊豆町で学校だよりの回覧板配布や、町のホームページに稲取高校のバナーが掲載され、情報発信力が強化
- ・東伊豆町・河津町所有施設利用時の減免措置（体育センター、河津バガテル公園等）
- ・長期的取組についての意見交換
専門学科の設置
町と連携した給食提供
地域連携活動、専門学校や大学とのつながりの強化 など

<R3>

- ・協議会は調整中
- ・東伊豆町役場・教育委員会、商工会と高校が連携し「地域創生・活性化事業」（1年生対象。地元の経済・企業の状況を知る）を立ち上げ予定（12月）

○南伊豆分校魅力化推進協議会

【構成員】行政、教育委員会、小中高校、PTA、区長会、商工会、観光協会、JA等

【取組】

<H30～R1>

- ・下田高等学校南伊豆分校学校農業クラブ活動支援事業（令和元年より）
農業クラブ活動（生徒大会参加移動費（バス借上げ料）等支援
- ・町民に対する生徒活動発表会
（令和元年度実施、翌年よりコロナ対策で地元ケーブルテレビにて放映）

<R2～R3>（R3は10月26日開催）

- ・南伊豆分校ランドデザインについての意見交換
- ・町（商工観光課、企画課地方創生室）と連携したキャリア教育
3年生 町キャリアカウンセラーの活用（講演及び模擬面接）
2年生 インターンシップでの企業とのマッチング支援、
インターンシップ受け入れ先とのキャリアカフェの実施
- ・「総合的な探究の時間」等への協力
- ・町内小中学校との連携
教職員の合同研修会（生徒指導）、PTAの合同研修会（学力向上）、
はごろも夢講演への中学2年生の参加、南伊豆中学校との相互授業公開 等

計画の概要（骨子）

「ふじのくに魅力ある学校づくり推進計画（県立高等学校第三次長期計画）」の概要

I 高等学校教育に関する現状（展望）及び課題 <ul style="list-style-type: none"> ・価値観や学習スタイルが多様化する中、生徒一人一人が個性的な生き方を追求し、自己実現を図ることが可能となる多様で柔軟な教育システムの構築が一層求められるようになる。 ・社会のグローバル化や情報化の進展等に対応できる能力を備えた人材の育成が求められる。 ・中学校卒業生数は、平成29年3月の35,112人から平成40年（2028年）3月には約31,000人に減少（約4,000人減少）することが推測される。 ・本県の教育大綱や教育振興基本計画の目標及び方向性に沿った具体的な在り方の検討が必要であり、生徒のニーズの変化及び時代の進展に伴う社会のニーズの変化、地域の実情等に適切に対応した高等学校教育の実現を図ることが課題である。 	
II 長期計画及び第二次長期計画の進捗状況 <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校教育の発展・充実に向けて、平成12年2月に平成22年度（2010年度）を見通した「静岡県立高等学校長期計画」、平成17年3月に平成27年度（2015年度）を見通した「静岡県立高等学校第二次長期計画」を策定し、高等学校教育改革の推進や教育環境の整備に努めてきた。 	
III 静岡県の教育の基本理念 <ul style="list-style-type: none"> ・個人として自立し、人との関わり合いを大切にしながら、よりよい社会づくりに参画し、行動する人を徳のある人、すなわち「有徳の人」と捉え、“ふじのくに”の未来を担う「有徳の人」の育成を進める。（基本目標） ・それぞれのライフステージや地域の実情に応じた、多様な学びの場の充実を図る「縦の接続」と家庭、学校、地域や職場の「横の連携」による教育を社会総がかりで推進する。（基本姿勢） 	
IV 県立高等学校等の今後の在り方 <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくりの推進にあたっては、「多様化する生徒の実態や地域社会の実情等を十分に踏まえたものとする」。 ・知性を高め、技芸を磨く教育の実現に向けて、「生徒一人一人の能力や適性を最大限に伸ばす教育内容の提供（新たな高等学校の設置、「技芸を磨く実学」の奨励、学科及び教育課程等の改善・充実）と質の高い教育を支えるための環境整備に努めるものとする」こと等を総括的な基本方向とする。 <p>個別の重点項目ごとの基本方向については、以下のとおりである。</p>	
生徒受入れの在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・当面は、引き続き、高等学校進学者の概ね3分の2を公立高等学校が受け入れることとしつつ、今後の在り方については、幅広く意見を聞きながら研究協議を行う。
魅力あふれる高等学校の実現 中高一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ・併設型は、希望しても実質的に選択できない地域があり、新たな設置について検討する。 ・実施校における成果及び課題を検証した上で、6年間の教育をより一体的に施すことが効果的だと判断できる場合には、中等教育学校への移行も検討する。 ・連携型は、中山間地域の人材育成等の観点からも有効であり、関係地域の意向等を十分踏まえ、引き続き、推進する。
普通科	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍する生徒の学力や進路希望が多様化しており、個々の学校ごとに、生徒の実態に応じた特色化や教育課程の編成を検討する。（キャリア教育も含めた進学指導の充実、特色ある類型の設置、学び直し等の学習支援等）
普通系 専門学科	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の振興、グローバル化への対応など、生徒及び社会のニーズに対応した改善・充実を図る。 ・「技芸を磨く実学」の奨励の基本方向を踏まえ、新たな学科の設置等を検討する。
職業系 専門学科	<ul style="list-style-type: none"> ・社会を支える労働人口の確保、産業の高度化への対応、「技芸を磨く実学」の奨励を進めるため、平成27年8月の静岡県産業教育審議会答申「専門高校等における新しい実学の奨励の在り方について」等を踏まえた改善・充実を図る。
総合学科	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の進路への自覚を深めさせる学習及びガイダンス機能の一層の充実・改善を図る。 ・時代の変化や社会のニーズに対応した系列（教育内容）の見直し、「技芸を磨く実学」の奨励を推進する。
全日制課程の学科別 生徒受入割合	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科等、専門学科、総合学科の生徒割合は、引き続き、65：25：10とする方向で検討する。
定時制課程	<ul style="list-style-type: none"> ・学年制による夜間の定時制課程は、地区内に複数校ある場合には、充足状況等の実情を踏まえつつ、より弾力的な運用が可能な単位制による昼間、夜間を併置する定時制高等学校への再編等を検討する。
通信制課程	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやICTを活用した柔軟な通信教育システムの研究、開発に努める。 ・高等学校における特別な支援等が必要な生徒に対して、週休日等に実施されている通信制課程のスクーリング等を活用した、他校からの通級が可能なシステムの整備を図る。

地域の実情等を踏 まえた高等学校教 育の在り方 中山間地域等の 小規模校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校間連携や外部の教育機関との連携による多様な学習機会の確保に努める。 ・ICTを活用した遠隔教育システムの研究を促進する。 ・県外からの生徒募集は、地元自治体からの支援を得て生徒の受入環境が整っている地域にて実施し、検証する ・1学級規模の分校等にあつては、2年連続して入学者が15人を下回った場合には、授業、特別活動、部活動などの教育活動が制限されるため、高等学校教育の質の保障の観点等から募集を停止し、他地域で高等学校教育が受けられるよう、地元自治体との調整を図る。
全日制課程の適 正配置等	<ul style="list-style-type: none"> ・全日制課程は、1学年6～8学級を適正規模とし、1学年4学級以下になる高等学校、産業従業者数等に見合った規模になっていない高等学校は、将来を見据えた新構想高等学校への改編（再編整備）を検討する。（過疎地域にある高等学校等は弾力的に対応）
誰もが学びやすい 高等学校の実現 共生・共育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の生徒数の動向、実施校の成果、余裕教室の状況等を踏まえ、特別支援学校高等部分校の設置を検討する。 ・発達障害等を抱えた特別な支援等を必要とする生徒に対して、特別支援学校と連携した支援体制（通級指導等）を検討する。
社会に開かれた 教育課程づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や特色ある教育資源など、地域の力を教育活動により積極的に導入するとともに、学校の持つ教育資源を地域に提供し、双方向での連携を図る。 ・産業界及び地域との連携により、体験学習やキャリア教育等の充実に努める。
教職員の資質向 上	<ul style="list-style-type: none"> ・頼もしい教職員を育成するために、教育者として求められる使命感・倫理観の涵養、教育に対する誇り、教育的愛情の維持・向上に努めるとともに、学習指導要領の改訂に合わせた指導力の向上を図る ・教員育成指標に基づき、法定研修（初任者研修、中堅教諭等資質向上研修）の見直し・改善、新たな教育課題に対応した研修プログラムの開発・普及など総合教育センターをはじめとした研修の充実に努める。 ・学校において日常的に学びあうことができる校内研修（OJT）の促進に努める。
学校施設・設備 の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・安全かつ良好な教育環境を確保するため、計画的に老朽校舎の長寿命化改修や建て替え、ユニバーサルデザインの導入、ICTを活用した学習空間の整備・充実、理科教育及び産業教育施設・設備の計画的な整備を図る。

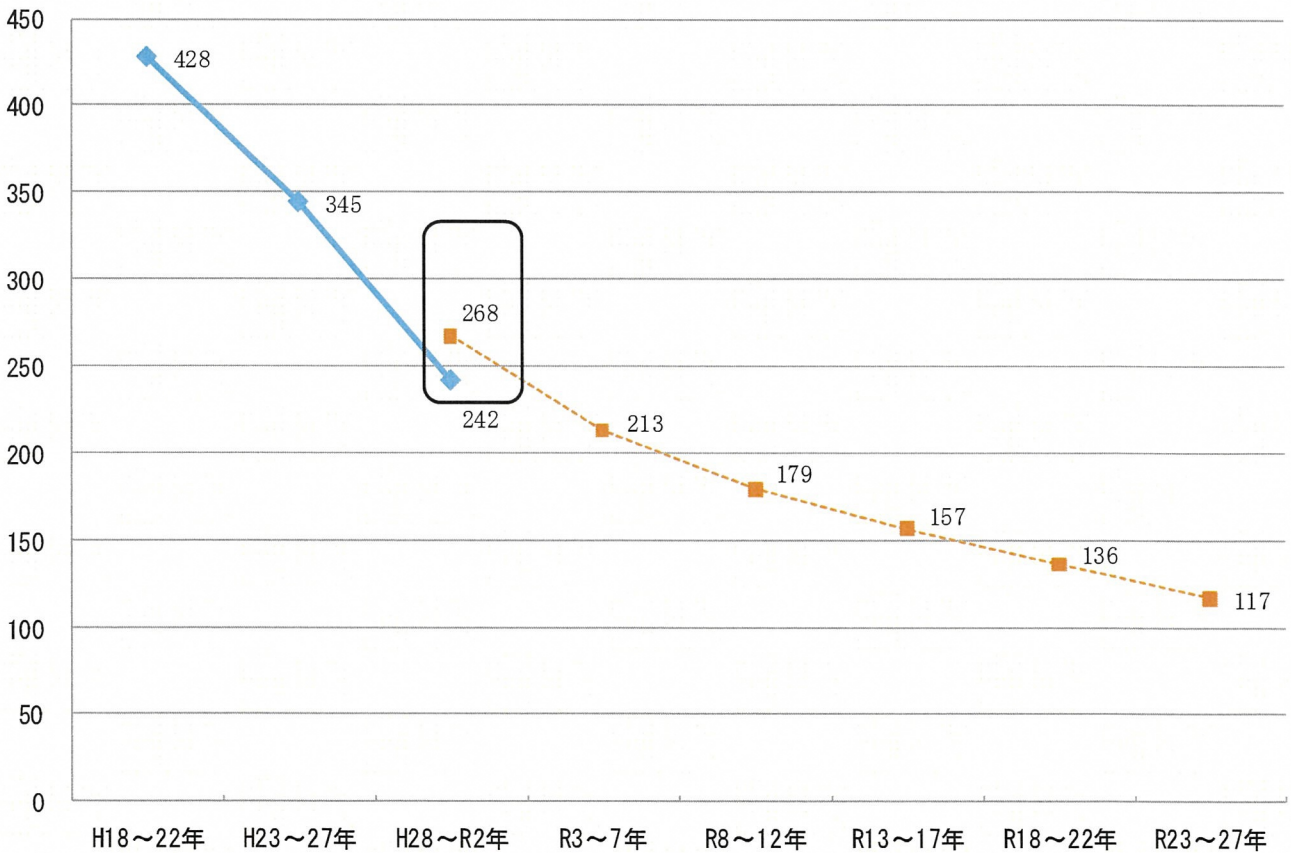
賀茂地域の出生数の現状

- 平成30年将来推計人口による賀茂地域の出生児数見込は、令和23～27年において、年平均117人となっており、平成28年～令和2年の年平均値と比較して半減する。
- 平成28年～令和2年の年平均値を実績と見込と比較すると、既に全ての市町で実績が下回っている。

区分	実績				見込					
	H18～22年	H23～27年	H28～R2年	H28～R2年	R3～7年	R8～12年	R13～17年	R18～22年	R23～27年	
管内計	428	345	242	268	213	179	157	136	117	
下田市	155	128	96	100	78	65	54	46	38	
東伊豆町	72	58	37	40	29	24	18	14	11	
河津町	61	50	30	37	30	25	25	22	20	
南伊豆町	54	45	34	39	33	30	29	26	23	
松崎町	43	33	24	29	25	22	21	20	18	
西伊豆町	43	31	21	23	18	13	10	8	7	

実績：「市区町別推計人口動態表」県経営管理部統計調査課
 (注) 期間前年10月1日から当該年9月30日までの出生児数/5年により平均人数を計上

見込：国立社会保障・人口問題研究所(平成30年)の推計結果(注)「5年ごとの0～4歳の人数」/5年により平均人数を算出



賀茂地域の高等学校の現状

(1) 当該地域の高等学校の充足状況

高校/年度	当該地区高校 入学者の状況	26	27	28	29	30	31	R2	R3	R4
下田高校	募集定員	240	240	240	240	240	240	200	200	200
	入学者数	241	236	237	224	224	200	181	187	179
	定員との差	1	▲ 4	▲ 3	▲ 16	▲ 16	▲ 40	▲ 19	▲ 13	▲ 21
南伊豆分校	募集定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40
	入学者数	40	40	40	23	36	18	19	22	17
	定員との差	0	0	0	▲ 17	▲ 4	▲ 22	▲ 21	▲ 18	▲ 23
稲取高校	募集定員	120	120	120	120	80	80	80	80	80
	入学者数	105	108	109	107	76	75	83	58	70
	定員との差	▲ 15	▲ 12	▲ 11	▲ 13	▲ 4	▲ 5	3	▲ 22	▲ 10
松崎高校	募集定員	120	120	120	120	120	80	80	80	80
	入学者数	106	95	99	101	84	70	76	73	57
	定員との差	▲ 14	▲ 25	▲ 21	▲ 19	▲ 36	▲ 10	▲ 4	▲ 7	▲ 23
賀茂地域 4校合計	募集定員	520	520	520	520	480	440	400	400	400
	入学者数	492	479	485	455	420	363	359	340	323
	定員との差	▲ 28	▲ 41	▲ 35	▲ 65	▲ 60	▲ 77	▲ 41	▲ 60	▲ 77
(参考) 全県合計	募集定員	22,325	22,085	21,890	21,815	21,535	21,020	20,460	19,340	19,190
	入学者数	22,326	21,949	21,942	21,687	21,279	20,661	19,507	18,112	18,293
	定員との差	1	▲ 136	52	▲ 128	▲ 256	▲ 359	▲ 953	▲ 1,228	▲ 897

R4年度の賀茂地域中学校卒業者は406人だが、
賀茂地域4高校への進学者は323人(▲83人)

(2) 賀茂地域の児童、生徒数の状況

令和4年度以降賀茂学区中学校卒業生推計(5年度以降高校入学予定者)

R4.5.1

【生徒数】 R2.3卒業 R3.3卒業 R4.3卒業 R5.3卒業 R6.3卒業 R7.3卒業 R8.3卒業 R9.3卒業 R10.3卒業 R11.3卒業 R12.3卒業

学年等	R1	R2	中卒者	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳
下田市	144	160	137	132	146	137	133	139	115	131	107	114	125	102	105	81
東伊豆町	83	68	71	58	69	63	60	57	51	58	55	43	43	38	36	33
河津町	57	61	60	51	64	44	55	44	48	50	42	46	29	32	25	35
南伊豆町	76	55	59	62	49	42	53	62	43	44	44	42	42	29	32	37
松崎町	47	35	41	43	28	38	29	32	33	26	22	29	29	24	30	18
旧西伊豆町	41	42	38	47	38	28	26	28	26	20	22	24	19	18	24	23
旧賀茂村	6	26				10	9	10	7	4	6					
計	454	447	406	393	394	362	365	372	323	333	298	298	287	243	252	227

※13年後の賀茂地域への進学者数は170人程度

(3) 主な賀茂地域外への進学先等

全日制(公立)	葦山7、城ヶ崎分校5、伊東商業4、土肥分校4、三島南1、田方農業1、三島北1、沼津東1	24人
全日制(私立)	加藤学園6、日大三島3、飛龍3、知徳2、暁秀2、桐陽1、誠恵1、東海大翔洋1、静岡北1、常葉大付属橘1、磐田東1、浜松修学舎1	23人
定時制	下田3	3人
通信制	静岡中央2、キラリ1	3人
高等専門学校	沼津高専3	3人
特別支援学校	松崎分校5、伊豆高原分校2	7人
その他	就職者、不明者 等	20人

○賀茂地域の学校統合状況

年度	県立高校	小中学校					
		下田市	東伊豆町	河津町	南伊豆町	松崎町	西伊豆町
H15							田子中+仁科中 →西伊豆中
H19					松崎小+岩科小+三浦小 →松崎小		
H20	下田北校+下田南校 →下田高						
H21					南崎小+竹麻小 →南伊豆東小		
H22					松崎小+中川小 →松崎小		
H26					三浜小+南中小 →南中小		
H30					大川小+熱川小 →熱川小		
R3							賀茂中+西伊豆中 →西伊豆中
R4		稲岸中+稻生次中+下田 東中+下田中→下田中					
R5				南小+東小+西小 →河津小(仮称)			
R6以降							仁科小+田子小+賀茂小 →学校名未定

	H15	R4	R6以降
高校	5校	4校	-
中学	13校	8校	-
小学校	25校	19校	15校

高等学校の配置について

○各高等学校の位置関係



賀茂地域の高等学校の校舎について

(県教育委員会 高校教育課)

○概要

各高校の建物の耐用年数を70年とすると、稲取高校、松崎高校は建て替えや長寿命化などを決定する時期が迫っている。

○各校の主な校舎の建築年度

校名	建物名	建築年	築年数	備考
下田高校	普通教室棟 特別教室棟	2007年	15年	土石流警戒区域
南伊豆分校	特別管理教室棟	1978年	44年	土石流警戒区域
稲取高校	管理教室棟 特別教室棟	1967年	55年	
松崎高校	教室棟の一部 (その他教室棟)	1963年 (1972年)	59年 (50年)	津波浸水域 土石流警戒区域

賀茂地域の高等学校について

高校名	下田高校	下田高校南伊豆分校
創立年度等	平成 20 年 ※下田北高校と下田南高校が統合	
学校規模	全日制＝募集定員 5 学級 (普通科 4 学級、理数科 1 学級)	全日制＝募集定員 1 学級
生徒数	全校生徒 538 人 (男 258 人、女 280 人) 1 年 179 人、2 年 185 人、3 年 174 人	全校生徒 54 人 (男 39 人、女 15 人) 1 年 17 人、2 年 20 人、3 年 17 人
設置学科	普通科、理数科	園芸科
通学方法	バス 167 人(31.0%) 電車 149 人(27.7%) 自転車 140 人(26.0%)	自転車 23 人(42.6%) バス 18 人(33.3%) 徒歩 4 人(7.4%)
地域別在籍生徒数	下田市 238 人(44.2%) 河津町 74 人(13.6%) 東伊豆町 64 人(11.9%) 南伊豆町 94 人(17.5%) 西伊豆町 26 人(4.8%) 松崎町 25 人(4.6%) その他 17 人(3.2%)	下田市 28 人(51.9%) 南伊豆町 26 人(48.1%)
卒業生の進路 ※令和 3 年度卒業生	4 年制大学 141 人(71.9%) 短大 9 人(4.6%) 専門学校等 35 人(17.9%) 就職 8 人(4.1%) その他 3 人(1.5%)	4 年制大学・短大 1 人(6.7%) 専修学校等 3 人(20.0%) 就職 10 人(66.7%)
志願倍率	R2= 184 人(0.92 倍) R3= 189 人(0.95 倍) R4= 180 人(0.90 倍)	R2= 21 人(0.53 倍) R3= 22 人(0.56 倍) R4= 21 人(0.53 倍)

賀茂地域の高等学校について 2

高校名	下田高校【定時制】	
創立年度等	平成 20 年 ※下田北高校と下田南高校が統合	
学校規模	定時制＝募集定員 1 学級	
生徒数	【定時制】 全校生徒 22 人 (男 10 人、女 12 人)	
設置学科	普通科	
通学方法	電車	6 人(27.2%)
	送迎	5 人(22.7%)
	徒歩	3 人(13.6%)
地域別在籍 生徒数	下田市	12 人(54.5%)
	河津町	4 人(18.2%)
	東伊豆町	2 人(9.1%)
	南伊豆町	3 人(13.6%)
	松崎町	1 人(4.5%)
卒業生の 進路 ※令和 3 年 度卒業生	大学・短大	1 人(4.5%)
	専門学校	2 人(9.1%)
	就職	2 人(9.1%)
	その他	3 人(13.6%)

賀茂地域の高等学校について 3

高校名	松崎高校	稲取高校
創立年度等	大正 13 年 (創立 94 周年)	大正 8 年 (創立 98 周年)
学校規模	全日制=募集定員 2 学級	全日制=募集定員 2 学級
生徒数	全校生徒 202 人 (男 108 人、女 94 人) 1 年 57 人、2 年 72 人、3 年 73 人	全校生徒 203 人 (男 96 人、女 107 人) 1 年 70 人、2 年 54 人、3 年 79 人
設置学科	普通科	普通科
通学方法	バス 70 人 (34.6%) 自転車 60 人 (29.7%) 自家用車 45 人 (22.3%)	自家用車 78 人 (38.4%) 自家用車・電車・バス 48 人 (23.6%) 徒歩・電車・バス 33 人 (16.2%)
地域別在籍生徒数	松崎町(松崎中) 70 人 (34.6%) 西伊豆町(西伊豆中、賀茂中) 97 人 (48.0%) ※以上、中高一貫連携中学校 南伊豆町 26 人 (12.9%) 下田市 7 人 (3.5%) その他 1 人 (0.5%)	下田市 59 人 (29.0%) 河津町 47 人 (23.2%) 東伊豆町 85 人 (41.9%) 南伊豆町 8 人 (3.9%) その他 4 人 (2.0%)
卒業生の進路 ※令和 3 年度卒業生	4 年制大学 20 人 (29.0%) 短大 5 人 (7.2%) 専門学校等 16 人 (23.2%) 就職 27 人 (39.1%)	4 年制大学 12 人 (17.4%) 短大 2 人 (2.9%) 専門学校 34 人 (49.2%) 就職 20 人 (30.0%)
志願倍率	R2= 76 人 (0.95 倍) R3= 73 人 (0.91 倍) R4= 57 人 (0.71 倍)	R2= 86 人 (1.08 倍) R3= 59 人 (0.74 倍) R4= 70 人 (0.88 倍)

校名	伊豆の国特別支援学校松崎分校	
生徒数	全校生徒 18 人 (男 10 人、女 8 人) 1 年 6 人、2 年 6 人、3 年 6 人	
地域別在籍生徒数	松崎町 1 人 (5.6%) 西伊豆町 4 人 (22.2%) その他 (伊豆市) 1 人 (5.6%)	下田市 10 人 (55.6%) 南伊豆町 2 人 (11.1%)

熱海・伊東地域の現状等について

1 賀茂地域における中卒者数推計

令和4年度以降田方学区中学校卒業生推計（5年度以降高校入学予定者）

【生徒数】 R2.3卒業 R3.3卒業 R4.3卒業 R5.3卒業 R6.3卒業 R7.3卒業 R8.3卒業 R9.3卒業 R10.3卒業 R11.3卒業 R12.3卒業

学年等	R1	R2	中卒者	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	6歳	5歳	4歳	3歳
伊東市	524	471	467	482	429	428	430	437	351	380	357	330	339	302	279	263
熱海市	164	182	179	148	159	153	176	158	121	146	128	115	126	125	103	118
計	688	653	646	630	588	581	606	595	472	526	485	445	465	427	382	381

646人 → 381人(▲41%)

（※同時期の賀茂地域
406人 → 221人(▲46%)）

※賀茂地域との流入・流出状況(現高1、令和4年3月中卒者)

	人数	進学先
賀茂 ⇒ 熱海・伊東	10人	城ヶ崎分校5、伊東商業4、伊東1
熱海・伊東 ⇒ 賀茂	2人	下田1、稲取1

※8人の転出超過

2 熱海・伊東地区の高校の志願状況(令和2～令和4年度入学者選抜)

高校名		R2			R3			R4		
		志願者	定員	倍率	志願者	定員	倍率	志願者	定員	倍率
伊東	普通	126	120	1.05倍	93	120	0.78倍	96	120	0.80倍
城ヶ崎分校	普通	34	40	0.85倍	37	40	0.93倍	30	40	0.75倍
伊東商業	商業	112	120	0.93倍	94	80	1.18倍	81	80	1.01倍
熱海	普通	74	80	0.93倍	72	80	0.90倍	48	80	0.60倍

3 熱海・伊東地区の高校の統廃合

	熱海高校	伊東高校	伊東城ヶ崎高校	伊東商業高校
S58			開校	
H18			「伊東高校 城ヶ崎分校」	
R5		「伊豆伊東高校」		

※2校体制

【参考】賀茂地域から伊豆伊東高校へのアクセス

- ・伊豆急下田駅 → 川奈駅(鉄道55分) → 伊豆伊東高校(徒歩15分)
- ・伊豆稲取駅 → 川奈駅(鉄道35分) → 伊豆伊東高校(徒歩15分)

伊豆総合高等学校土肥分校県外募集の開始について

(高校教育課)

1 概要

- 地域の要望に応える形で、伊豆総合高等学校土肥分校において、令和5年4月から県外募集(県外生徒特色選抜)を実施する。
- 全国から生徒を募集し、土肥の豊かな自然環境や温かい風土の中で、少人数のきめ細やかな教育を実現する。
- 令和4年4月から広く全国へ募集広報を開始し、年間5名程度の「土肥留学生」の受入れを目指す。

2 実施の背景

- これまで地域住民、伊豆市、学校、県教委が「土肥分校魅力化推進協議会」において地域の学校としての発展と学校の存続のため、県外募集実施に向けた体制づくりを検討してきた。
- 検討の結果、地域において県外募集を行う体制が整ったため、令和4年1月7日に協議会から県教育委員会に対し、県外募集実施の要望が提出された。

【主な取組】

《地域住民》

- ・地域のペンションや旅館を活用した下宿の確保
- ・土肥留学生の生活をサポートするために「土肥分校サポーターズ」を発足（生活支援、地域資源を生かした体験プログラム、地域行事参加のサポート）

《伊豆市》

- ・土肥留学生の家賃補助などの支援
- ・地域みらい留学(内閣府)を活用した広報の実施

《学校》

- ・オンリーワン・ハイスクール等を活用した土肥ならではの魅力ある学びの充実（遠隔授業の充実やマリンスポーツの実施）

地域ニーズに対応する高校の検討（例）

1 求められる教育内容

(1) 地域の実態に対応した教育内容（学校からの聞き取り）

		他県の例																	
学科/コース	考え方																		
普通科/ 特進コース	<ul style="list-style-type: none"> ・地元中学生の上位層は他地区の進学校に流れる傾向が強く、生徒の流出を抑えたい ・看護医療系、情報系、教育系の進学希望者が多い 	○広島県立庄原 ^{しょうはらかくち} 格致高等学校（普通科 医療・教職コース） <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度に普通科医療・教職コースを設置（40人定員） ・生徒数（各学年120人定員：1年92人、2年105人、3年101人、合計298人） ・普通科医療・教職コース生徒数（令和4年） <table border="1"> <thead> <tr> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男 15</td> <td>男 10</td> <td>男 9</td> <td>男 34</td> </tr> <tr> <td>女 10</td> <td>女 22</td> <td>女 21</td> <td>女 53</td> </tr> <tr> <td>計 25</td> <td>計 32</td> <td>計 30</td> <td>計 87</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎あり（男子32名、女子25名が入寮中） 		1年	2年	3年	合計	男 15	男 10	男 9	男 34	女 10	女 22	女 21	女 53	計 25	計 32	計 30	計 87
1年	2年	3年	合計																
男 15	男 10	男 9	男 34																
女 10	女 22	女 21	女 53																
計 25	計 32	計 30	計 87																
普通科/ 医学・看護コース 医療・介護コース	<ul style="list-style-type: none"> ・医学部志望の生徒は他地区の高校へ進学するので、大学との連携した授業の実施など生徒のニーズに応えたい ・将来的に地元の医療現場で活躍できる人材を育成する 	○大阪府立桜和高等学校（教育文理学科 教職教育コース） <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度から公立高校3校の統合により開校 ・教育文理学科（単科）：6学級 240人定員 ・3コース制（教育教職コース、理数情報コース、国際文化コース） ・1年生では全員同じ授業を受け、2年生からコース別 																	
普通科/ 教職コース	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の教員志望者減少に対して、高校生の時から意識付けを行う ・郷土への誇りや愛情を持つ地元出身の教職員を育成する 	○京都府立京都すばる高等学校（起業創造科、企画科） <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年に商業科の学科改編により設置：8学級 300人定員 → 起業創造科（110人）、企画科（110人）、情報科学科（80人） ・起業創造科の特徴的な科目：「ビジネス基礎」、「起業マネジメント」 ・企画科の特徴的な科目：「商品開発と流通」、「グローバルビジネス」 ・大学との高大連携プロジェクトにより課題研究を実施 																	
普通科/ 起業家コース	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興や地域課題について学び、地域活性化の核となる人材を育成する ・海外との積極的な交流を通じて、英語教育も充実させる 	○沖縄県立嘉手納高等学校（総合学科） <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度から2コース設置（ドリームデザインコース、キャリアアップコース） ・ドリームデザインコース（185人定員）：3つの進路別ラインの設置 → 大学・短大ライン／専門学校ライン／就職・公務員ライン ・キャリアアップコース（15人定員）：「学びなおし」コースとして設置 → 義務教育段階で学びのつまづき等を経験しながら、高校で学びなおす意欲がある生徒が対象 																	
普通科/ 総合コース	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い学習を通じて、地域貢献できる人材を育成する ・地域、県、大学と連携した教育を通じて、質の高い学びを実践する 																		

(2) 地域の特色を生かした教育内容 ※学科/コース名は案

学科/コース※	生徒の学び・可能性	他県の例
<p>グローバル観光科 普通科/ グローバル観光 コース</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興や地域課題をテーマとした幅広い探究学習等を通じて、高校生が主体となつて地域の魅力づくりにつなげる ・海外交流、大学や企業との連携を通じて、国際観光、リゾート観光、観光ビジネス等を学ぶ ・多くのインバウンドにも対応するため、コミュニケーション能力や外国語活用能力を身に付けたグローバル人材を育成する 	<p>○沖縄県立長志川商業高等学校(リゾート観光科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和52年に公立高校3校の商業科を統合して開校：4科5学級200人定員 →リゾート観光科(40人)、オフィスビジネス科(40人)、ビジネスマルチメディア科(40人)、情報システム科(80人) ・リゾート観光科の特徴的な科目：「中国語」、「観光産業理解」 <p>○ニセコ町立北海道ニセコ高等学校(緑地観光科 グローバル観光コース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時制課程 緑地観光科(単科)：1学級40人定員 ・2コース設置(グローバル観光コース(20人)、農業科学コース(20人)) ・生徒数(1年25人、2年22人、3年9人、4年0人、合計56人(令和4年)) ・特徴的な科目：農業と観光を融合させた授業「グリーンライフ」 ・定時制のため4年生への進級が可能。4年生では一流ホテルで実践的なホテル業務やサービスマインド、語学等を学べる研修を実施 ・寄宿舎あり
<p>食物調理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の食材を生かし、高校生が料理を通じて地域の魅力を創り出す ・「商品開発」、「接客販売」、「店舗経営」など実践的な学び ・卒業と同時に調理師免許を取得し、即戦力として働ける 	<p>○三笠市立三笠高等学校(食物調理科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化により道立としては2012年閉校、その後三笠市により市立化し食物調理科の単科校として開校 ・食物調理科(単科)：1学級40人定員 →2コース設置：調理師コース(20人)、製菓コース(20人) ・地域とのつながりを深め、幅広い視野を持つ「食」のプロフェッショナルを育成、高校生運営によるレストランを実施
<p>ITシステム科 データサイエンス科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や大学等と連携し、IT分野に関する最先端の知識や技術を学び、学問・産業・社会的課題解決に貢献できる人材を育成する ・進学や就職に有利な専門的な資格を取得できる(ITパスポート等) ・全国の企業経営者からオンラインビジネスを学び、生徒自らショッピングサイトを運営する 	<p>○茨城県立友部高等学校(IT科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に全国初のITの単科校として開校予定 ・定時制高校の仕組みを利用して、昼夜2部制で柔軟な授業方式を実現し、学びと様々な活動の両立を図りながら、実践的なIT授業を実施 ・3年次以降は「課題研究」として、自分の興味・関心に応じて2つのゼミに分かれ、専門性を高める学習を行う。 (例)情報システムゼミ：Society5.0時代のIT技術者として必要なスキルの習得 (例)情報デザインゼミ：デジタルコンテンツのエキスパートの育成 <p>○札幌市立旭丘高等学校(数理データサイエンス科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度から進学重視の数理データサイエンス科を開設(2学級80人定員) ・1年次でデータサイエンスの基礎を学ぶ、2年次で探究活動を1年間実施、3年次では研究成果を論文やポスターとして学術的にまとめる ・特徴的な科目：人工知能概論、データサイエンス演習、インフォグラフィックス

学科／コース	生徒の学び・可能性	他県の例																				
福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の急速な進展に伴い、地域のニーズに応える介護・福祉人材を育成する ・地元の関連施設や養成機関等と連携し、高度な介護・福祉分野の知識を学び、卒業後に地元で働く人材を増やす 	<p>○北海道立北海道置戸高等学校(福祉科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化により存廃の危機に直面したが、置戸町が福祉人材の育成を求めて道教委へ福祉科設置を働きかけたことにより存続 ・福祉科(単科)：1学級40人定員 ・生徒数(1年10人、2年9人、3年10人、合計29人(令和3年)) ・寄宿舎あり(置戸町出身者は1割程度、その他の生徒は近隣市町村から) ・過去10年間で介護福祉士国家試験合格者率98.1%(全国平均56.0%) ・令和4年度入学者より、3年生でコース制の導入 →プロフェッショナルコース、ダイバーシティコース ダイバーシティコースは、福祉科目の割合を少なくして環境や国際理解等の科目を置く 																				
工芸科	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の自然や素材を活用した作品を通じて、地域の魅力を広く発信できる人材を育成する ・国内外で活躍する芸術家や作品等に触れる機会を提供し、地元で活躍する文化・芸術の担い手を育成する 	<p>○音威子府村立おといねっぴ美術工芸高校(工芸科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口約700人の音威子府村にある村立高校 ・工芸科(単科)：1学級40人定員(全国募集) <table border="1" data-bbox="742 264 885 1131"> <thead> <tr> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>合計</th> <th>寮生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男 14</td> <td>男 17</td> <td>男 8</td> <td>男 39</td> <td>男 39</td> </tr> <tr> <td>女 23</td> <td>女 23</td> <td>女 25</td> <td>女 71</td> <td>女 70</td> </tr> <tr> <td>計 37</td> <td>計 40</td> <td>計 33</td> <td>計 110</td> <td>計 109</td> </tr> </tbody> </table> <p>(令和3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が村外出身者。ほとんどの生徒が寮生活をしており、豊かな自然に囲まれた中で創作活動を行う ・1年生で基礎を学び、2年生から美術コースと工芸コースに分かれる ・生徒数の激減により一時は入学者が6人まで減少したが、平成21年度は倍率が2.6倍にまで上昇した 	1年	2年	3年	合計	寮生	男 14	男 17	男 8	男 39	男 39	女 23	女 23	女 25	女 71	女 70	計 37	計 40	計 33	計 110	計 109
1年	2年	3年	合計	寮生																		
男 14	男 17	男 8	男 39	男 39																		
女 23	女 23	女 25	女 71	女 70																		
計 37	計 40	計 33	計 110	計 109																		
地域探究科	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に主体的に対応し、豊かで創造的な人生を営む資質・能力を身に付け、幅広い分野で地域社会に貢献できる人材を育成する ・地元企業等と協働した学びを通じて新たな地域課題を発見し、課題解決に向けて取り組めるリーダーを育成する 	<p>○岐阜県立坂下高等学校(地域探究科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度より開設(普通科と生活デザイン科廃止、福祉科は継続) ・2年生から4コース制に別れ、地域で求められる人材を育成 →進学・看護/未来共生/保育/調理・製菓 ・未来共生コース：週1回程度の企業実習(デュアルシステム)を行い、ビジネスマナー等、幅広い知識と教養を身に付ける。 <p>○長崎県立松浦高等学校(地域科学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度より開設(2学級80人定員) ・「普通科目の学び」と「地域課題解決型学習」により、社会の変化に対応できる「課題解決能力」と「ふるさとを大切にする姿勢」を身に付ける 																				

2 学びの質を確保するための学校の体制

<単科校(専門高校)の設置>

概要	メリット	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・特定分野をより深く学習する <ul style="list-style-type: none"> →普通系専門学科(理数・外国語・芸術・体育等) →職業系専門学科(農業・水産・工業・商業・福祉等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に役立つ技能修得や資格取得が可能 ・社会から求められるスペシャリストの育成 ・大学や企業等と連携した高度な学びの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業構造の変化に伴い、社会から求められる専門性の高い知識・技術を修得できる施設整備と教員の確保

<単位制の導入>

概要	メリット	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・学年による教育課程の区分を設けず、進路希望に応じて多様な科目を選択する 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望に応じて、多様な科目を選択可能 ・多様な人材の育成が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの選択科目から履修科目を決めるため、教員のきめ細かな指導が必要 ・幅広い専門分野を教える教員の確保

<通信制の導入>

概要	メリット	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日学校へ通う必要がなく、ICT機器や郵便等を活用して単位を取得する(必要に応じて通学する) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制のため、興味に合わせて多様な学びができ、個々の学習ペースで卒業を目指すことが可能 ・自らカリキュラムを作ることができ、自由な時間を作り出し、趣味や仕事との両立が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校へ通うことが少ないため、友達を作る機会が少なく ・学習スタイルが自由なので、卒業するためには自己管理能力が必要 ・進路先が未定のまま卒業する生徒の割合が高い

<中高一貫教育の導入>

在り方	概要	メリット	課題
併設型	<ul style="list-style-type: none"> ・県立中学への入試選抜により、6年間での教育を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校、高校間の指導内容の入れ替えや移行(先取り等)が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・県立中学校の入学者選抜実施による地元中学校への影響 ・中高6年間で人間関係が固定化
連携型	<ul style="list-style-type: none"> ・市町立中学校と県立高校の関係のまま、連携して6年間を通じて地域の人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業交流や中高合同の行事実施等、中学校と高校間の連携が深まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・併設型よりも緩やかな制度のため、連携する高校以外の高校へ進学するケースも多い ・中高6年間で人間関係が固定化

<校舎制の導入>

概要	メリット	課題
<ul style="list-style-type: none"> 既存の複数の学校をそれぞれ「校舎（キャンパス）」ととらえ、一つの学校として各々が特色ある教育を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 通常授業（座学）では、生徒は校舎間の移動の必要が無い 所属する学科以外の科目に触れる機会を設定しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 実習等がある場合は、生徒は校舎間の移動が必要となるケースがある 教員の確保（各校舎の生徒減により教員数減がさらに進行） 多様な教育を行うためには、教員の移動や遠隔授業システムの導入が必要

<水平的な学校配置>

概要	他県の例
<ul style="list-style-type: none"> 各学校の強みや特色を生かすため、地区ごとに生徒の学びのニーズや進路希望に合わせて、一校につき一つの重点学科やコースをそれぞれ導入し、多様な選択を可能とするフラットな学校配置を行う 	<p>○福島県教育委員会の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路目標に合わせて大学等と連携したプログラムを提供することとで生徒の進路意識を高め、将来地元で活躍できる人材を育成するために4分野のコース制を4つの学校にそれぞれ導入する A校：医学コース（医師）、B校：保健・医療コース（看護師） C校：教育コース（教員）、D校：福祉コース（介護士）

😊 静岡県賀茂地域局からのお知らせです。

『賀茂の子』が育つ地域づくりに向けて!

※賀茂地域の1市5町と静岡県賀茂地域局で構成する「賀茂地域広域連携会議」では、『賀茂の子』づくりなど賀茂地域の様々な課題解決のための取組を進めています。

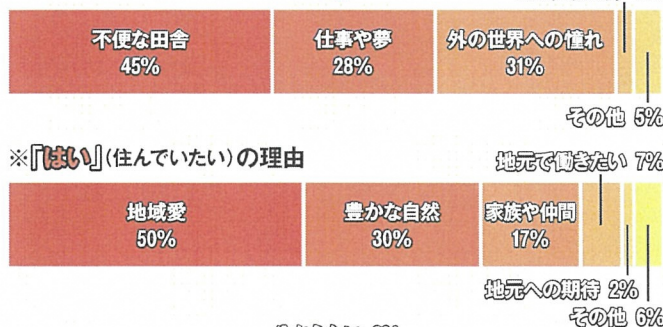
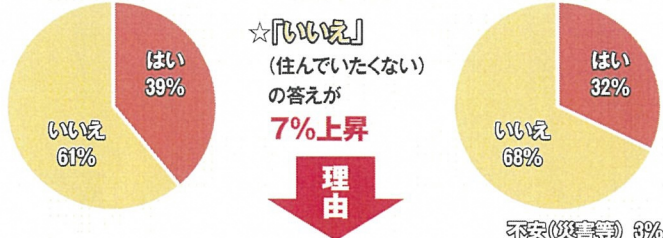
『賀茂の子』とは
“賀茂はひとつ”の
想いのもと、
ふるさとの誇りを持ち、
地域の発展に
貢献できる人。

●賀茂地域の学生・住民の皆さんを対象にアンケートを行いました。

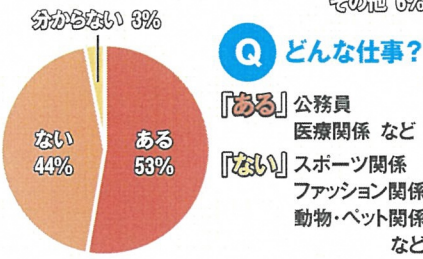
対象 賀茂地域(1市5町)の19小学校、12中学校、4高校の
それぞれ最終学年の児童・生徒 ※回答数=1,237人

Q 今から15年後、あなたは賀茂地域に住んでいたいですか?

2016年度 ...▶ 3年前との比較 ...▶ 2019年度

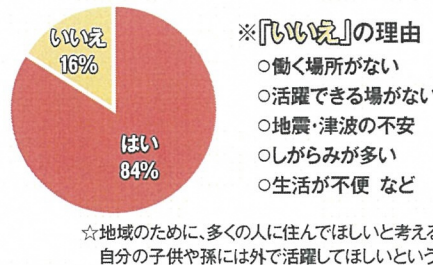


Q 将来やりたい仕事や
なりたい職業は
賀茂地域に
ありますか?

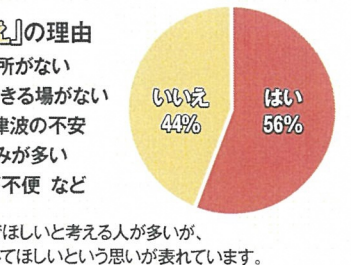


対象 賀茂地域(1市5町)の全住民
※回答数=2,547人

Q 将来的にもっとたくさん
の人に住んでほしいと
思いますか?



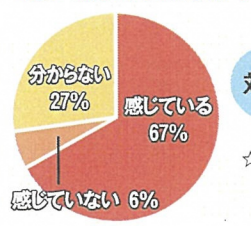
Q あなたの子供や孫に、
将来地元に住んでほしい
と思いますか?



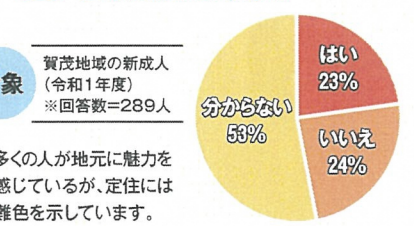
Q こんな取り組みがあるといいな!と
思うことは何ですか?



Q 市町に魅力を感じていますか?

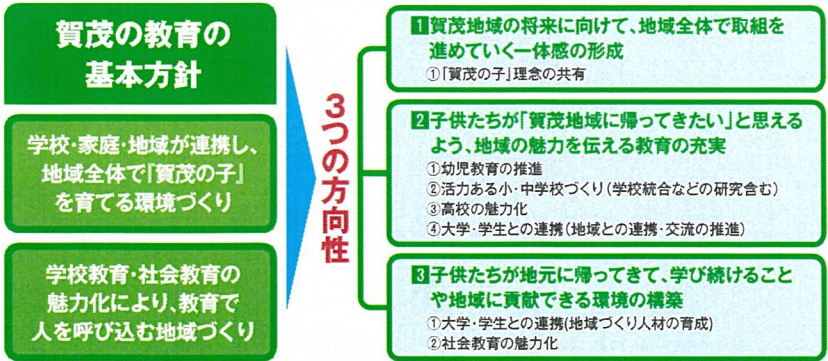


Q 将来、市町内で生活し続けたい
と考えていますか?



☆上記のアンケート結果を参考にし...

●教育の現場では、「賀茂地域教育振興方針」を策定し、『賀茂の子』を育てることに取り組んでいます。



基調講演
静岡大学(R2.1.24実施済) ※写真● 静岡県立大学、静岡文化芸術大学の基調講演の開催

社会人コース
静岡県立大学「観光を中心とした最近の経済動向」、静岡大学「地域づくりを学ぶ社会人コース」(静岡県立大学・静岡文化芸術大学と連携)

観光コースの利活用
静岡県立大学・静岡文化芸術大学等による賀茂地域のホテル・旅館を実践の場として活用など

フィールドワーク
大学等のゼミ活動等(R2.1.24 下田市まち歩き) ※写真●

大学・高校交流
大学間交流、合同大学説明会・オープンスクール

地域交流
NPO・児童生徒・地域コミュニティ・民間・行政の交流(R2.1.24 大学生・高校生による Living Anywhere Commons視察) ※写真● 住民の学び機会創出

地域体験
1次産業体験、観光資源(ジオ等)体験、観光業(宿泊施設・ガイド)インターンシップ、文化伝統活動など

賀茂キャンパス 始めました!
[活用例]

スクール・ミッションについて

(高校教育課)

1 概要

○令和3年3月31日、学校教育法施行規則等の一部改正に伴い、高等学校は、スクール・ポリシーを策定し、公表することとされた。また、設置者は、学校がスクール・ポリシーを策定する前提として、スクール・ミッションを再定義することが望ましいこととなった。

2 スクール・ミッションとは

○スクール・ミッションとは、各高等学校に期待される社会的役割のことであり、「①学校の特色」、「②魅力的な教育」、「③将来の生徒像」からなっている。

3 各校のスクール・ミッション

学校名	内容
下田	①賀茂地域における高校教育の伝統的拠点校として、 ②知・徳・体の人間教育と地域連携による課題解決型学習と通して、 ③将来の日本や地域を支え、導いていく人材の育成を目指す。
南伊豆分校	①賀茂地区における唯一の専門高校（園芸科）として、 ②小規模校の強みをいかし、生徒が主体的に地域連携活動やキャリア形成に取り組む教育を通して、 ③地域社会を支え、貢献する人材の育成を目指す。
松崎	①西豆地区における唯一の連携型中高一貫教育の高等学校及び伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校と連携し、「共生・共育」を実践する高等学校として、 ②少人数で生徒一人ひとりに寄り添った多種多様な教育を通して、 ③自他を大切にし、社会や地域に積極的に参画し貢献する生徒の育成を目指す。
稲取	①地域に根ざした地域と共にある高校として、 ②多様な進路希望に応じた少人数教育と、地元行政や企業、地域で活動する大学等との連携・協働学習を通して、 ③自らの将来を切り拓く力と、東伊豆地域の今と未来に主体的に関わり、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。